

教科		理科		学年	第3学年	評価規準
実施時期	単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)			
1学期	水溶液とイオン	9	<ul style="list-style-type: none"> ○水溶液には、電流が流れるものと流れないものがあることを見出す。 ○電気分解の実験で電極に物質が生成することから、イオンの存在を知る。 ○イオンの生成が、原子の成り立ちに関係することを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能(知)】 ○化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、原子のなり立ちやイオン、酸・アルカリ、中和、化学変化と電池についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ○必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 【思考・判断・表現(思)】 ○見通しをもって観察、実験などを行いイオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度(態)】 ○水溶液やイオン、酸・アルカリとイオン、化学変化と電池に関する事象・現象に意欲的に関わり、見通しをもって実験をしている。 	
	酸、アルカリとイオン	9	<ul style="list-style-type: none"> ○酸とアルカリの性質を調べ、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを見出す。 ○中和の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解させる。 			
	化学変化と電池	10	<ul style="list-style-type: none"> ○電解質水溶液と2種類の金属板を用いた実験を行い、電流がとり出せることを見出す。 ○化学エネルギーが電気エネルギーに変換されることを理解させる。 			
	生物の成長と生殖	10	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の成長とふえ方に関する事象・現象の特徴に着目しながら、生物の成長とふえ方について理解する。 ○身近な生物のふえ方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見出す。 			
2学期	遺伝の規則性と遺伝子	10	<ul style="list-style-type: none"> ○交配実験の結果から、親の形質が子に伝わるときの規則性を見出す。 ○遺伝子を介して、規則性をもって親から子に形質が伝えられることや、遺伝子の本体がDNAであることを理解させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能(知)】 ○顕微鏡を正しく操作しながら観察を行い、適切にスケッチすることができる。 ○有性生殖では減数分裂でつくられた生殖細胞が受精することで両親から半分ずつ染色体を受け継ぎ、無性生殖では分裂前後の染色体が同じであることを説明することができる。 ○生物の種類の多様性と進化について理解している。 【思考・判断・表現(思)】 ○染色体のようすに着目して細胞分裂の過程を考え、親から子への染色体の受け継がれ方から、有性生殖と無性生殖の特徴を発表することができる。 ○メンデルの実験で、子や孫の代で現れる形質について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度(態)】 ○興味・関心をもち意欲的に観察を行い、考えを自分なりにまとめようとする。 	
	生物の多様性と進化	6	<ul style="list-style-type: none"> ○現在と昔の生物を比較した結果から、生物の種類の多様性と進化に関する事象・現象について特徴や規則性を見出す。 			
	物体の運動	10	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動のようすを観察し、運動のようすを記録する方法を習得する。 ○物体にはたらく力と運動のようすの規則性について、日常生活と関連づけて科学的に思考する能力や態度を養う。 			
	力のはたらき方	8	<ul style="list-style-type: none"> ○2力のつり合いや力の合成・分解についての実験を行い、規則性を見出す。 ○水中の物体にはたらく浮力が水圧により生じていることを実験を通して見出す。 ○物体に力がはたらくときの運動とはたらかないときの運動についての規則性や作用・反作用のはたらきを、日常生活と関連づけて科学的に思考する能力や態度を養う。 			
	エネルギーと仕事	13	<ul style="list-style-type: none"> ○力学的な仕事の定義をもとにエネルギーを量的に扱うとともに、物体の運動とエネルギーについて日常生活と関連づけて科学的に思考する能力や態度を養う。 ○エネルギー変換や保存に関する実験を行い、日常生活でのエネルギー利用と関連づけて、エネルギー変換の効率について考える。 			
	星空をながめよう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○銀河系のようすや太陽系を構成している惑星、その他の小天体のようすを知ることで、宇宙の広がりに関心をもつ。 ○太陽の観察を行い、太陽の特徴を見出す。 ○惑星の特徴を理解するとともに、惑星の公転と関連づけて太陽系の構造をとらえる。 			
	地球の運動と天体の動き	11	<ul style="list-style-type: none"> ○星の明るさや天球、方位、時刻の表し方、地球の自転について知り、天体の位置関係を考察するための基盤とする。 ○太陽や天体の日周運動を観察し、その観察記録を地球の自転と関連づけてとらえる。 ○四季の星座の移り変わり、季節による昼夜の長さ、太陽高度の変化について、地球の公転や地軸の傾きと関連づけてとらえる。 			
月と金星の見え方	7	<ul style="list-style-type: none"> ○月の観察を行い、月の公転と見え方、日食と月食のしくみを理解する。 ○金星の見え方を太陽系の構造と関連づけてとらえる。 				
宇宙の広がり	6	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、太陽系と恒星についての基本的な概念や原理・法則を理解する。 				

<p>3学期</p>	<p>地球と私たちの未来のために</p>	<p>29</p> <p>○生物が生産者、消費者、分解者として栄養の面から相互に関連しながら、水、土、空気などからなる非生物的環境とともにつり合いを保ちながら変化していることを理解する。 ○人間の活動などさまざまな要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識する。 ○自然から受ける恵みと災害のようすに関する情報を収集し、自然と人間との関わり方について適切に判断する能力や態度を身につける。 ○科学技術の進歩により日常生活が豊かで便利になったことと、その反面を理解するとともに、エネルギー資源の現状や発電方法を知る。 ○科学技術の発展と自然、人間について多面的、総合的にとらえさせ、持続可能な循環型社会構築のための科学的根拠に基づいた判断材料が得られるようにする。</p>	<p>【知識・技能(知)】 ○テーマに基づいて科学的に調査する方法を身につけるとともに、資料の要点をまとめて発表することができる。 ○生態系の概念を理解するとともに、自然界のつり合いや自然と人間の関わりについて説明することができる。 ○科学技術の発展と私たちの生活との関わりについて理解し、説明することができる。 【思考・判断・表現(思)】 ○自然環境の現状を分析し、よりよい自然と人間の関わり方や災害から身を守るための方法について考察することができる。 ○持続可能な社会の構築に向けた取り組みについて科学的に分析し、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度(態)】 ○自然界における生物相互の関係や、自然の恵みと災害、科学技術と持続可能な社会について、日常生活と関連づけながら意欲的に調べたり発表したりしている。</p>
------------	----------------------	--	---